

企画・執筆者紹介 (五十音順)

秋山正子 あきやま・まさこ

1950年秋田県生まれ。聖路加看護大学1973年卒。関西にて、周産期臨床および、看護教育に従事。実姉の末期がんの在宅ホスピスケアを体験後、1992年より、東京都新宿区にて訪問看護を始める。母体法人の解散により、2001年に会社を設立し、同じ地域で訪問看護・居宅介護支援・訪問介護の事業を展開している。2011年高齢化の進む団地の商店街に「暮らしの保健室」を開設し、地域の中のものず相談を受けながら、在宅医療連携拠点事業や、がん療養相談事業も実施している。2015年9月四谷坂町に看護小規模多機能型居宅介護事業「坂町ミモザの家」を始めた。

2008年に出会った英国のがん患者と家族のための新しい相談支援の形をぜひ日本でも、運動を展開。がん体験者である鈴木美穂とともにNPO設立。2016年10月東京都江東区豊洲にマギーズ東京をオープンした。専門は地域包括ケア・在宅緩和ケア。

これまでの著書に、『つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア』(医学書院、2016年)、『在宅ケアのはぐむ力』(医学書院、2012年)、『在宅ケアのつなぐ力』(医学書院、2011年)、『在宅ケアの不思議な力』(医学書院、2010年)など。

天羽健太郎 あまは・けんたろう

聖路加国際病院 整形外科 医幹

1975年横浜市生まれ。2002年昭和大学医学部卒。聖路加国際病院での初期研修を経て、同院整形外科レジデント。年整形外科専門医取得。2010年奈良県立医科大学整形外科国内留学。2010年アメリカ、キャンベルクリニック留学。2014年より現職。専門は整形外科、足の外科。

これまでの著書に『症状から一発診断! 整形外科専門医はこう見立てる』(総合医学社、2015年)など。

伊澤直樹 いざわ・なおき

1981年神奈川県生まれ。2005年聖マリアンナ医科大学卒。

静岡がんセンターレジデントなどを経て、2014年4月より聖マリアンナ医科大学臨床腫瘍学講座助教。専門は腫瘍内科学、消化管・胆膵の腫瘍に対する化学療法。これまでの著書に、『チャートでわかる! がん外来化学療法のリアル チームで解決する18の副作用』(南江堂、2014年)がある。

市原 真 いちはら・しん

札幌厚生病院 病理診断科

1978年北海道生まれ。2003年北海道大学医学部卒。2007年北海道大学大学院医学研究科分子細胞病理学博士課程修了。国立がん研究センター中央病院病理部にて半年間の任意研修後、2007年10月より札幌厚生病院病理診断科。病理専門医、臨床検査管理医、細胞診指導医。

Twitter:@Dr_yandel

岡元るみ子 おかもと・るみこ

千葉西総合病院 腫瘍内科 部長

1989年琉球大学医学部医学科卒。がん・感染症センター都立駒込病院で研修後、国立がん研究センター中央病院レジデント。1994年駒込病院 化学療法科 常勤医、2003年同医長、2013年より現職。国立がん研究センター東病院 血液腫瘍科(非常勤)、首都大学東京健康福祉学部(非常勤講師)、SAARC Conference on Clinical Oncology (International advisor)。専門は腫瘍内科学 悪性リンパ腫を含む固形がんの化学療法。日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医 指導医。著書に、『ポケット版臨床医薬品集』(薬事日報社、2016年)、『がん化学療法副作用対策ハンドブック(改訂版)』(羊土社、2015年)、『新がん化学療法ベストプラクティス』(照林社、2012年)など。

賀本敏行 かもと・としゆき

宮崎大学医学部 泌尿器科学分野 教授

1961年大阪市生まれ。1987年京都大学卒。同大学泌尿器科に入局後、滋賀県立成人病センターでの研修の後1994年京都大学大学院医学研究科に入学、1995年中途退学し第一病理学教室(病態生物医学講座)助手。1997年に附属病院泌尿器科助手に戻り、2001年講師、2003年同助教授(2007年から准教授)を経て2009年より現職。専門は泌尿器腫瘍、内視鏡、腹腔鏡手術。

川上和宜 かわかみ・かずよし

がん研有明病院薬剤部 主任

1974年岡山県生まれ。2000年昭和薬科大学大学院薬学研究科修了。2000年4月より癌研有明病院薬剤部勤務、2011年公益財団法人がん研有明病院薬剤部主任、2013年昭和薬科大学にて「Paclitaxelによる末梢神経障害重篤化のリスク因子解析及び基礎的研究」にて博士(薬学)取得(田口恭治教授)。2015年より現職。研究テーマは、抗がん剤による末梢神経障害、経口抗がん薬のadherence。これまでの著作に『今日の治療薬』(南江堂)、『がん化学療法レジメン管理マニュアル』(医学書院、2012年)、など。

北野滋久 きたの・しげひさ

国立研究開発法人がん研究センター中央病院 先端医療科

先端医療開発センター新薬臨床開発分野・免疫療法開発分野

1972年大阪府生まれ。1998年三重大学医学部卒、同大学内科学第二講座に入局、同科関連病院にて一般内科研修を行なう。2001年、三重大学大学院医学系研究科入学、造血器腫瘍と固形腫瘍の診療を行ないつつ、新規がん免疫療法の臨床試験、患者免疫応答解析の研究に携わる。2005年、同大学大学院医学系研究科 遺伝子・免疫治療学講座の助手。2008年、同血液・腫瘍内科助教。2009年、Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, Ludwig Center for Cancer Immunotherapy (Drs.Jedd Wolchok and James Allison)に留学、免疫チェックポイント阻害剤(抗CTLA-4抗体療法、抗PD-1抗体療法など)の新規がん免疫療法の開発、臨床試験登録患者の免疫応答解析を主としたトランスレーショナルリサーチ(TR)に携わる。2013年帰国、国立がん研究センター中央病院に赴任し、新規がん免疫療法をはじめ各種新規薬物療法の早期臨床試験、TRを行なっている。専門は腫瘍内科学、腫瘍免疫学、がん薬物療法(特にがん免疫療法)。

金 容壺 きむ・よんい

淀川クリスト病院 腫瘍内科

1999年北大医学部卒。2003年国立がん研究センター東病院レジデント、2006年より聖隷浜松病院へ。乳腺科、緩和医療科を経て2010年より化学療法科。2016年4月より現職。がん薬物療法専門医・指導医(日本臨床腫瘍学会)。共著者に『がんサバイバー——医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす』(医学書院、2012年)。

河野 勤 こうの・つとむ

公益財団法人 佐々木研究所附属 杏雲堂病院 腫瘍内科/化学療法部

1970年大阪府生まれ。1996年名古屋大学卒。愛知県厚生連海南病院での研修を経て2000年、国立がんセンター中央病院内科レジデント。その後、同センター専門修練医を経て2005年乳腺・腫瘍内科医員。2008年日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医取得。2010年、杏雲堂病院 腫瘍内科医長。2013年より同院腫瘍内科科長、2014年より同院化学療法部部長兼務。専門は腫瘍内科学、緩和医療学。

五嶋摩理 ことう・まり

がん・感染症センター都立駒込病院眼科 医長

1960年ニューヨーク生まれ。1985年金沢大学卒。1993年東京女子医科大学東医療センター眼科。2012年がん・感染症センター都立駒込病院涙道専門外来開設。2015年より現職。

東京女子医科大学東医療センター非常勤講師。専門は涙道疾患、ぶどう膜炎、眼科手術一般。

近著(分担執筆):『改訂版抗がん剤副作用対策ハンドブック』(羊土社、2015年)、『涙道内視鏡入門!』(メジカルビュー社、2016年)。

桜井なおみ さくらい・なおみ

特定非営利活動法人HOPEプロジェクト 理事長

1967年東京都生まれ。大学で都市計画を学んだ後、卒業後はコンサルティング会社にまちづくりや環境学習などの仕事に従事。2004年に乳がん罹患後は、働き盛りで罹患した自らのがん経験や社会経験を活かし、小児がんを含めた患者・家族の支援活動を開始し、現在にいたる。ほかに、一般社団法人CSRプロジェクト代表理事、キャンサー・ソリューションズ株式会社代表取締役社長。技術士(建築部門)。これまでの著作(共著)に『がんと一緒に働くこうー必携CSRハンドブック』(合同出版、2010年)、『がん経験者のための就活ブッカーサバイバーズ・ハローワーク』(合同出版、2015年)、『希望の言葉を贈りあおう』(静流出版、2010年)、『薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム』(羊土社、2011年)、『がん放射線治療』(学研メディカル秀潤社、2011年)など多数。

佐治重衡 さじ・しげひら

福島県立医科大学腫瘍内科学講座 主任教授

同附属病院 臨床腫瘍センター センター長

放射線医学県民健康管理センター 地域がん登録室 室長

1968年岐阜県生まれ。1992年岐阜大学医学部卒業。東京都立駒込病院、岐阜大学大学院、埼玉県立がんセンター研究所、カロリンスカ医科大学(スウェーデン)、東京都立駒込病院乳腺外科・臨床試験科、M.D.アンダーソンがんセンター(米国)、埼玉医科大学国際医療センター腫瘍内科、京都大学大学院医学研究科標的治療腫瘍学講座を経て2014年9月より現職。特に乳癌を専門とする腫瘍内科医として診療を行ないながら、ホルモン療法・分子標的治療に関する基礎・臨床・トランスレーショナル研究を継続している。

これまでの著作に『内科学 第10版』(朝倉書店、2013年)、『新臨床腫瘍学』(南江堂、2015年)、『最新 内分泌代謝学』(診断と治療社、2013年)など。

品田雄市 しなだ・ゆういち

東京医科大学病院 がん専門相談員

1973年埼玉県生まれ。2012年ルーテル学院大学大学院博士前期課程修了。現在同大学院博士後期課程在学中。1995年より東京医大病院に勤務し、現在は医療福祉相談係長。国立がん研究センター相談員研修講師を務める他、新宿区や東京都のがん対策推進関連の委員として、地域における包括的かつ効果的ながん患者支援体制作りにも携わる。社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員・認定医療社会福祉士。専門は医療ソーシャルワーク、がん・脳卒中・救命救急などの急性期におけるソーシャルワーク実践。「相談したら気持ち温かくなった」と患者さんに感じてもらえる相談支援を心掛けている。

これまでの著作に『医療福祉総合ガイドブック』(医学書院、2015年)など。

杉元幹史 すぎもと・みさお

香川大学医学部 泌尿器・副腎・腎移植外科

1964年香川県生まれ。1988年香川医科大学卒業、2006年香川大学医学部附属病院講師、2009年香川大学医学部泌尿器科准教授、2012年M.D.アンダーソンがんセンター短期留学。専門は泌尿器腫瘍、特に前立腺がん。前立腺癌診療ガイドライン2016作成事務局、前立腺癌監視療法(PRIAS-JAPAN)事務局、日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)泌尿器科腫瘍グループ事務局。泌尿器腹腔鏡手術技術認定医、がん治療認定医、泌尿器科ロボット支援手術プロクター。

高木良重 たかき・よしえ

医療法人福西会 福西会病院 看護部

九州大学医療技術短期大学部を卒業後、九州大学医学部附属病院、福岡高野病院での勤務を経て、2003年より現職。2001年に日本看護協会看護研修学校を卒業し、皮膚・排泄ケア認定看護師資格を取得、2011年に九州大学大学院を卒業し、がん看護専門看護師資格を取得。

院内では褥瘡管理者として従事するなか、大腸肛門病センターでのストーマケアや排便ケアにも関わっている。また、院外活動として近隣施設との連携や研修会運営なども行なっている。

田頭尚士 たがしら・ひさし

国立病院機構 岡山医療センター 薬剤部 主任

1978年広島県生まれ。2001年福山大学薬学部卒。2006年福山大学大学院薬学研究科博士課程修了(薬学博士取得)。同年、国立病院機構四国がんセンターに勤務。2012年医療薬学会がん専門薬剤師認定。2015年より現職。

専門は乳がん、婦人科がん化学療法。

これまでの著作(共著)に『がん化学療法レジメン管理マニュアル』(医学書院、2012年)。

鷹野 理 たかの・おさむ

三井記念病院薬剤部 チーフ、同緩和ケアチーム、同化学療法部、がん診療センター

1971年長野県北佐久郡望月町(現佐久市)生まれ。1995年東京薬科大学薬学部卒。1997年東京薬科大学大学院医療薬学専攻修了。1999年日本肢体不自由児協会心身障害児総合医療養育センター入職。2000年5月社会福祉法人三井記念病院薬剤部入職。2004年より化学療法センター(現化学療法部)に配属。2006年から緩和ケアチーム薬剤師、2015年からがん診療センターも兼務し、現在にいたる。

『在宅新療0-100(ゼロヒャク)』(へるす出版)にて「薬剤師が伝えたい 在宅医療に必要な薬の知識」連載中。

高橋俊二 たかはし・しゅんじ

がん研有明病院 院長補佐・総合腫瘍科部長

1983年東京大学医学部卒業。1985年東京大学医学部第4内科入局、1989年東京大学医学部第4内科助手。1991年米国テキサス大学留学。1994年癌研究会附属病院化学療法科医員。2012年がん研究会有明病院化学療法部部長、総合腫瘍科部長。専門は血液内科学、臨床腫瘍学、骨代謝学。日本癌学会評議員、日本乳癌学会評議員、日本臨床腫瘍学会評議員・学術企画委員、日本がん分子標的治療学会理事。

立川正憲 たちかわ・まさのり

東北大学大学院薬学研究科薬物送達学分野 准教授

1978年福島県会津生まれ。2000年東北大学薬学部卒業、2004年日本学術振興会特別研究員、2005年東北大学大学院薬学研究科博士課程後期3年の課程修了[博士(薬学)]、2005年富山医科薬科大学薬学部助手、富山大学大学院医学薬学研究部(薬学)助教、ブリティッシュコロンビア大学脳研究センター博士研究員、ジョージア医科大学訪問研究員を経て、2011年東北大学大学院薬学研究科助教、2012年から現職。

田辺裕子 たなべ・ゆうこ

虎の門病院 臨床腫瘍科

2001年福井医科大学卒。同大第三内科、亀田総合病院での研修を経て2008年国立がん研究センター中央病院内科レジデント。その後、同センター専門修練医、早期・探索臨床研究センター先端医療科非常勤医院。2015年より現職。専門は腫瘍内科学、乳がん薬物療法。
これまでの著作に『がん診療レジデントマニュアル』（医学書院、第5版・第6版）、『新臨床腫瘍学 改訂第4版』（南江堂、2015年）など。

田村洋輔 たむら・ようすけ

大阪医科大学附属病院 第一内科

1978年大阪府生まれ。2004年大阪医科大学卒。清志会病院内科での研修を経て、2009年国立がん研究センター中央病院治療開発分門がん専門修練医として2年研修。2011年より大阪医科大学第一内科助教。専門は呼吸器主要、新薬の治験。

辻 大樹 つじ・だいき

静岡県立大学 薬学部 助教

1974年静岡県生まれ。2000年明治薬科大学大学院臨床薬学専攻 修士課程修了後、聖隷浜松病院薬剤部入職、薬剤師として勤務。聖隷淡路病院薬剤科、聖隷浜松病院薬剤部を経て2009年より現職。また、2010年より静岡県立総合病院臨床指導薬剤師として病院実習を担当。2015年静岡県立大学薬学部にて博士（薬学）取得。専門は医療薬学、臨床薬理学、がん支持療法。

都築豊徳 つづき・とよのり

愛知医科大学病院 病理診断科 教授

1962年愛知県生まれ。1989年名古屋大卒業。同大学院を修了後、1993年より名古屋第二赤十字病院に勤務。2001年ジョーンズホプキンス大学病理に留学。2016年より現職。専門は外科病理一般、泌尿器病理、皮膚病理、細胞診。
これまでの著作に、『腎盂・尿管・膀胱癌——腫瘍病理鑑別診断アトラス』（文光堂、2012年）、『腎・尿路/男性生殖生殖器腫瘍——癌診療指針のための病理診断プラクティス』（中山書店、2012年）など。

豊原敏光 とよはら・としみつ

医療法人福西会 福西会病院 副院長

1953年福岡県生まれ。1980年山口大卒業。九大病院で研修。1986年九州大学医学博士（ヒルシュスブルング病腸の免疫組織化学的研究）。1986年より飯塚病院で勤務、1988年に小児外科 マギル大学病理学教室研究生（ラット移植腸の電気生理学的研究）、1995年福岡高野病院を経て、2003年より当院（大腸肛門病センター）勤務。2010年福岡大学臨床教授。
専門は、大腸肛門病（特に排便障害、直腸・肛門疾患）。
これまでの著作に、『特発性便秘に対する治療方針：大蠕動と直腸肛門反射に着眼した排便コントロール』（「消化器科」科学評論社、2008年）、『便秘のメカニズム』（「臨床看護」へるす出版、2013年）、『骨盤臓器脱に対するダイナミックMRI』（「外科」南江堂、2014年）、『じつは怖い便秘に気づく・対応する見抜きたい重篤な便秘』（「エクスパートナース」照林社、2016年）など。

橋本一径 はしもと・かずみち

早稲田大学文学学術院 准教授

1974年生まれ。東京大学文学部思想文化学科卒業。フランス・ナント大学理工学部DEA課程修了。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。愛知工科大学講師を経て、2012年より現職。専攻は表象文化論。これまでの著作に『指紋論——心霊主義から生体認証まで』（青土社、2010年）など。

早川昌子 はやかわ・まさこ

相原病院プレストセンター／関西労災病院

1999年兵庫県立大学大学院修士課程修了。同年関西労災病院にてリエゾン精神看護専門看護師として勤務、専門看護師として認定登録。緩和ケアチーム、乳がんケアチームに属し、がん患者の心身のケアを担当。2008年、関西労災病院と並行して啓明会相原病院乳腺科でも勤務。
これまでの著作に、『リエゾン精神看護—患者ケアとナースの支援のために』（共著）（医歯薬出版、2004年）、『精神看護スペシャリストに必要な理論と技法』（共著）（日本看護協会出版会、2009年）、『精神看護QUESTION BOX 1 精神科看護の理解とよくある場面での看護ケア』（分担執筆）（中山書店、2009年）、『乳腺外科ナースングプラクティス』（文光堂、2009年）など。

松本陽子 まつもと・ようこ

NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会 理事長

1965年生まれ。愛媛県出身。
1984年に父親をがんで亡くす。NHK松山放送局でニュース番組などのキャスターを務め、医療問題を中心に取材（番組制作も担当）。1999年に子宮頸がんがみつかり治療開始。2008年、愛媛がん患者・家族会 おれんじの会を設立。2009年NPO法人愛媛がんサポート おれんじの会に改組。一般社団法人全国がん患者団体連合会副理事長。愛媛県がん診療連携協議会委員、愛媛県がん対策推進委員会委員、厚生労働省がん登録検討会委員。

森 玄 もり・たかし

練馬光が丘病院 薬剤室

1973年京都生まれ。1997年明治薬科大学卒。2003年山王メディカルプラザ薬剤室において化学療法に携わる。2005年国際医療福祉大学附属三田病院 薬剤部、2009年杏雲堂病院 化学療法部などを経て、2014年より現職。また、2007年よりNPO法人 がん情報局 事務局長を務める。専門は乳がん化学療法。

森 信好 もり・のぶよし

聖路加国際病院 感染症科

2005年より聖路加国際病院内科にて初期研修、2007年に同チーフレジデントを経て、2008年より同内科感染症科にて後期研修。
2011年からThe University of Texas MD Anderson Cancer Center, Department of Infectious Diseases, Infection Control & Employee Healthでクリニカルフェロー。2013年よりチーフフェローとして教育業務やadministrative roleを担う。2014年にはアドバンスフェローとして更に臨床、教育、研究に加えて「医療の質」の改善に積極的に取り組んだ。2015年7月から現職。感染症科として主科業務およびコンサルテーション業務を行なうとともに、乳腺外科の異物感染や化学療法によるB型肝炎再活性化予防のプロトコル作成など行なう。

渡邊知映 わたなべ・ちえ

上智大学総合人間科学部看護学科 准教授

1973年福島生まれ。東京大学大学院医学系研究科博士後期課程単位取得満期退学。看護師・保健学博士。日本赤十字社医療センター看護師、がん研有明病院化学療法科データマネージャー、東京慈恵会医科大学講師、昭和大学乳腺外科助教を経て、2014年4月より現職。専門はがんと性・生殖、がん診療の質評価など。がん治療と生活をつなぐサポートプログラムや乳がん治療における意思決定支援に取り組んでいる。若年乳がん患者コミュニティStylesも主宰している。
これまでの著書に、『女性性を支えるがん看護学』（共著）（医学書院、2015年）、『がん看護PEPリソース 患者アウトカムを高めるケアのエビデンス』（共著）（医学書院、2012年）、『理解が実践につながるステップアップがん化学療法看護』（共著）（学研メディカル秀潤社、2016年）など。